

令和2年度第三セクター経営評価結果及び対応について

一般財団法人青森市観光レクリエーション振興財団

1 令和2年度 経営評価

評価項目	目的適合性	効率性・効果性	組織運営の健全性	財務の健全性	透明性	自立性
第一次評価 (法人)	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好
第二次評価 (所管部局)	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好

すべての項目について「概ね良好」の評価を得ているが、依然として自主事業収益の低下などにより厳しい経営環境にあり、財務体制の強化が引き続き求められる。

※参考 令和元年度決算

■当期損益 △225千円 累積損益 25,437千円

※事業収支は256千円になり、経常外収支△481千円を加えた、当期損益は△225千円になった。(経常外収支は退職金引当金を支出したことによる。)

■市からの収入

全体 233,257千円 (経常収益に占める割合 R1:47.0%←H30:40.9%)

うち競争によらないもの 1,670千円 (経常収益に占める割合 R1:0.3%←H30:0.3%)

※令和元年度のみ合併補助金は除く。

2 第三セクターの対応

◆経営戦略プラン(R2～R4)の取組と計画

経営基盤の強化、指定管理施設の機能充実と美化活動、利用者サービスの充実、地産地消の推進、文化芸術の普及振興、スポーツの普及振興、情報発信の強化、人材育成の強化、公益事業の強化、収益事業の強化という経営戦略方針に基づき事業を推進。

○具体的取組

- ①組織構成及び責任者の配置・役割の見直しによる経営責任の明確化
- ②指定管理施設の防災・防犯管理の徹底
- ③イベントの見直しと各施設の特性を生かしたイベントの検討
- ④職員を育成し施設の情報発信を強化
- ⑤スキー人口拡大のため小学1・2年生のスキーリフト無料化

○財務計画：毎年度当期損益の収支均衡を最低限維持

【取組状況】

令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、施設の休館、イベントの中止など一部計画どおりに進めることができなかった取組があったものの、合併による総務・経理部門の一元化による経費削減や事業部門の強化など検討課題に取り組み、経営基盤の強化を図った。

令和3年度以降については、新型コロナウイルス感染の影響を見極めつつ、持続可能な法人として、より高い自立性の向上を図るため、状況に応じて柔軟に対応しながら収益性の高い自主事業を展開していく。

3 市の対応

令和2年4月1日に新財団となり財務基盤の強化と効率的・効果的な事業運営体制の構築を図る環境が整ったことから、これまで旧財団において蓄積されたノウハウを活用した収益事業の拡大に加え、管理部門の共通化や共通経費等の削減によるスケールメリットを最大限生かすとともに、各施設の運営方法や集客の方策等を検証し、本市が目指す第三セクターの経営健全化と自主・自立に向けた取組を推進するよう指導を行っていく。